

ワイドショー番組の内容分析

——「情報ツウ」「とくダネ」「スーパーモーニング」の比較から——

酒井 信一郎
池 上 賢

1 本稿の目的

本稿は平日の午前8時よりキー局で放送されている、一般的に「朝のワイドショー」と呼ばれる生放送番組の内容分析を目的としている¹⁾。

これらの番組は生放送番組で、フリーのアナウンサーやタレントおよび系列局のアナウンサーが番組の司会進行を努め、なんらかのニュースや話題についてVTRを紹介し、そうして伝えられた事項について、タレントや有識者のゲストを交えたスタジオトークを行なうという番組構成を特徴とする。番組あたりの放送時間は一時間半と長く、社会問題から生活情報、紀行企画まで、総合的な情報を提供していることから、「情報ワイド番組」と呼ばれることもある。1970年代後半に午後の時間帯に誕生し、男女の愛憎や事件、性の問題を売り物にするような番組構成をもっていたワイドショー番組であるが、1990年代以降、その番組内容は「芸能中心」からニュースや社会問題を積極的に取り上げ、報道番組とは一味ちがった切り口で見せようという“情報主体”へと転換してきた（日本民間放送連盟編、1997：277）。

ニュース番組の内容分析研究に比べて、ワイドショーを対象とした研究はいまだそう多くない。概してワイドショーが、ニュース番組と比較の上で「低俗」とされたり、ニュース番組を「汚染」するものとされたり、客観的な分析よりも論評として語られてきた背景がある（Wieten & Pantti 2006）ことは、内外共通している。だが、Scan-

nel (1996)、Hack (1999) らによる（日本の朝のワイドショーに相当する）“breakfast television”の研究や、ワイドショーにおける「主婦」像の提示を分析した田中 (2002)、ワイドショー全体の構造を分析した石山ら (2005)、ワイドショーのビデオ映像やスタジオトークのエスノメソドロジー／会話分析を行った是永・酒井 (2006) によって、現代人の日常生活と密着したメディア経験としてワイドショーを捉える研究が開かれつつある。さらに現代のワイドショーが報道色を一層強めているのに加え、近年激しさを増しているといわれる朝の視聴率競争は、現代（日本）人がニュースを認知する場として、ワイドショー番組が機能している可能性も考えられる。

本研究ではワイドショーという番組全体でどういった事項がどれくらい扱われているのか、番組内容の内実を明らかにするために、まず、10週間の朝のワイドショー番組に内容分析を行い、個々の番組の特徴を量的に明らかにする。つづいて、これらの番組において報道というものかどのようにして構成されているのかを分析するために、BSE リスクに関する米国産牛肉輸入停止問題の報道を抽出し、その後にワイドショーを特徴づけるスタジオトークの談話構造についての分析を行う。

2 分析の方法

本稿の分析の対象となるのは、2006年1月23

表1 収録番組一覧

番組名	放送局	放送日	開始時刻	終了時刻	放送時間 (CM含む)
情報ツウ	NTV	平日	8:00 AM	9:55 AM	115分
とくダネ!	CX	平日	8:00 AM	9:55 AM	115分
スーパーモーニング	ANB	平日	8:00 AM	9:55 AM	115分

日(月)から3月31日(金)までの10週間の間に放送された、日本テレビ系列の「ザ! 情報ツウ(以下「情報ツウ」と表記)」、フジテレビ系列の「情報プレゼンター とくダネ(以下「とくダネ」と表記)」、テレビ朝日系列の「スーパーモーニング」の三番組である。収録期間中はいずれの番組も、午前8時から9時55分までを正規の放送時間とし²⁾、同時時間帯には「はなまるマーケット(TBS)」もあるが、これら三つの番組とは内容構成上異なり、情報バラエティ番組としての内容構成を中心とするため、今回の録画対象からは除外した。録画には東芝のHDD & DVDレコーダー「RD-XD 91」3台を使用した。

この期間における社会的な注目を集めた話題としては、ライブドアによる粉飾決算事件、それに関連して、堀江社長が自民党・武部幹事長の二男への送金を指示するメールを送っていたという問題、米国产牛肉に特定危険部位が混入していたことによる輸入停止の問題、一部一級建築士による耐震偽装問題などが挙げられる。スポーツイベントとしては、トリノにおける冬季オリンピックおよびアメリカでの野球の世界大会ワールドベースボールクラシック(WBC)があった。

収録した番組は、WBCの放送時間延長、ライブドア送金メール事件報道のための放送時間繰り上げなどによる放送時間の変更によって録画に失敗したケースを除く、計145本(「情報ツウ」49本、「とくダネ」48本、「スーパーモーニング」48本)である。これらすべてについて、事項番号・日付・番組名・(事項の)開始時刻・(事項の)終了時刻・見出しの6つの番組属性項目を設

け、各事項の切れ目ごとに記録し、構成表を作成した。同じ話題についてCMを挟んで放送されていた場合、CMをひとつの区切りとみなし、2つの事項とした。見出しには、事項の冒頭に登場したテロップを、当該事項の内容を代表するものとして、記載した。以上のような手続きにより、録画期間に放送された番組の全事項のコード化作業を行った。

表2、表3、表4に掲載するのは、2006年1月23日に放送された三番組それぞれの番組構成表である。

表2 「情報ツウ」番組構成表(2006年1月23日)

事項番号	日付	番組名	開始時刻	終了時刻	見出し
1	1月23日	情報ツウ	8:00	8:01	オープニング
2			8:01	8:09	強制捜査から6日間 堀江社長の肉声
3					CM
4			8:12	8:28	任意で次々聴取 側近たちの素顔
5			8:28	8:42	証人喚問後初めて登場 小嶋社長が住民説明会へ
6			8:42	8:51	米牛肉に危険な背骨 ずさん検査に激怒!
7			8:51	8:53	けが人続出! 伝統の火祭りに密着
8					CM
9			8:55	9:02	けが人続出! 伝統の火祭りに密着
10					CM
11			9:03	9:08	けが人続出! 伝統の火祭りに密着
12			9:09	9:24	今日のゲスト オリエンタルラジオ
13					CM
14			9:26	9:31	今日のゲスト オリエンタルラジオ
15			9:31	9:32	WATに渋谷パニック ファン4000人
16					CM
17			9:35	9:38	かおる姫熱愛の真相 今朝本人を直撃
18					CM
19			9:40	9:46	ニュースダイジェスト
20					CM
21			9:48	9:49	天気予報
22			9:49	9:51	CM
23			9:51	9:52	今日の予定
24			9:52	9:53	エンディング

表3 「とくダネ」番組構成表(2006年1月23日)

事項番号	日付	番組名	開始時刻	終了時刻	見出し
1	1月23日	とくダネ!	8:00	8:06	オープニングトーク
2			8:06	8:07	本日の放送内容
3			8:07	8:22	大関栃東3度目のV 朝青龍の8連覇阻止
4			8:22	8:24	米国産牛肉再び輸入禁止“危険部位”が混入...
5			8:24	8:26	CM
6			8:26	8:40	米国産牛肉再び輸入禁止“危険部位”が混入...
7			8:40	8:42	阪神・浜中が観戦 かおる姫熱愛!?
8			8:42	8:43	今日の6項目 ライブドア関連、ヒューザー関連、トリノオリンピック団結式
9			8:43	8:48	トリノ5輪代表 メダルへ最終調整
10			8:48	8:55	“聴取”間近... 堀江社長が心境告白
11			8:55	9:01	住民に説明 小嶋社長「補強で...」
12			9:01	9:04	首都圏大雪 不慣れ...各地で混乱
13			9:04	9:05	CM
14			9:05	9:07	大学センター試験 雪より音...トラブル続出
15			9:07	9:09	無理心中合い次ぎ 岐阜・山口
16			9:09	9:15	高齢ドライバー事故 なぜ増加する?
17			9:15	9:17	CM
18			9:17	9:21	高齢ドライバー事故 なぜ増加する?
19			9:21	9:23	CM
20			9:23	9:31	忘れられた日本「火」 囲炉裏
21			9:31	9:33	CM
22			9:33	9:42	忘れられた日本「火」 囲炉裏
23			9:42	9:43	CM
24			9:43	9:46	気象情報
25			9:46	9:50	CM
26			9:50	9:51	今日の占い
27			9:51	9:53	CM
28			9:53	9:53	エンディング

表4 「スーパーモーニング」番組構成表(2006年1月23日)

事項番号	日付	番組名	開始時刻	終了時刻	見出し
1	1月23日	スーパーモーニング	8:00	8:01	オープニング
2			8:01	8:12	都心で8年ぶりの大雪各地で混乱相次ぐ/気象庁予報が大はずれ“寒冬”修正の裏事情
3			8:12	8:18	証人喚問の“沈黙”破り… ヒューザー小嶋社長が独占激白
4			8:18	8:19	CM
5			8:19	8:20	喚問後に小嶋氏初激白 補償能力で仰天発言
6			8:20	8:22	CM
7			8:22	8:33	「純資産ほとんどない」住民救済の行方は
8			8:33	8:46	疑惑のメール発覚!! 堀江社長も取引実態を把握!?
9			8:46	8:54	堀江社長も実態把握か 疑惑のメール発覚
10			8:54	9:04	疑惑の“キーパーソン” ライブドア宮内取締役の素顔/疑惑のライブドアNo.2 宮内取締役の素顔
11			9:04	9:07	疑惑のライブドアNo.2 キーマン宮内氏とは
12			9:07	9:08	堀江流を問う 第3弾 “世界一”への固執
13			9:08	9:10	CM
14			9:10	9:13	堀江流を問う 第3弾 “世界一”への固執
15			9:13	9:14	CM
16			9:14	9:17	堀江流を問う 第3弾 “世界一”への固執
17			9:17	9:19	CM
18			9:19	9:26	堀江流を問う 第3弾 “世界一”への固執
19			9:26	9:28	CM
20			9:28	9:34	再開後わずか一か月 米国产牛“輸入停止”
21			9:34	9:36	小泉総理に” 難題続出 “通常国会開会
22			9:36	9:38	CM
23			9:38	9:39	甘い結婚生活?告白 木村祐一 (42)
24			9:39	9:43	壮絶! 炎の攻防戦 “野沢の火祭り”
25			9:43	9:45	CM
26			9:45	9:49	壮絶! 炎の攻防戦 “野沢の火祭り”
27			9:49	9:51	CM
28			9:51	9:52	最新ニュース 吉野屋株に売り注文殺到
29			9:52	9:53	エンディング

3 内容分析の結果

まず、各番組で扱われた事項の本数と、各事項の終了放送時刻から開始放送時刻を差し引き、事項ごとの放送時間の長さを分単位で測定した。ニュース番組の内容分析の先行研究（萩原 2001 など）ではビデオ映像のパートとスタジオトークのパートとを分離した上でそれぞれの放送時間量が測定されるが、ワイドショーではスタジオトークの最中にビデオ映像が放送される場合も多いことから、この段階ではそれらをあわせてひとつの事項として測定した。実際の放送時間が1分に満たなかった場合は、繰り上げて1分として測定した。

構成表では番組のCMを含めて全項目を記載しているが、CM、局の番組宣伝、直接番組内容のコーナーを構成してないオープニングとエンディングを除外して、各番組で登場した事項の本数と放送時間量の総を求めたものが、表5である。

録画期間内に放送された事項数では「とくダネ」が1016本と最も多かった。「情報ツウ」の事項数は798本で、録画本数が49本と他の番組より1回分多いにも関わらず、3番組の中で最も少なかった。「スーパーモーニング」は865本と「情報ツウ」と「とくダネ」の中間の数値となっている。

放送時間に関しては同じく「情報ツウ」が放送1回分多いにも関わらず、4885分と「とくダネ」の4954分に比べて少ない数値になっている。「スーパーモーニング」は「とくダネ」と同じ回数を記録しているが、やはり4658分と若干少ない数値となっている。このデータからは、同じ時間帯

表5 10週間の間に番組で扱われた事項の総本数と総分量

番組名	本数	分量
情報ツウ	798本	4885分
とくダネ!	1016本	4954分
スーパーモーニング	865本	4658分

に放送されていた番組であってもCMの時間などに違いがあり、放送時間が同一ではないが明らかになった。

つぎに、個々の事項を主たるテーマのカテゴリーごとに分類した。分類には、以下の14カテゴリーを設けた。

- A. 政治
- B. 経済
- C. 軍事
- D. 犯罪・事件・事故
- E. 時事的な話題（とくに事件性はないもの）
- F. 家庭・くらし
- G. スポーツ
- H. 恋愛・結婚
- I. 芸能
- J. 紀行・企画（旅行に出かけたり、食事に行ったり）
- K. ゲストトーク（当日招待されたゲストのみのトークコーナー）
- L. 気象
- M. その他（占いなど）
- N. ニュースダイジェスト
- O. オープニング・エンディング

分類は放送された事項の中心が何に対してあるのかを基準とした。この基準によれば、たとえば、この録画期間では「ライブドア」に関する事項が多く収録されたが、「堀江貴文社長（当時）」の容疑に関する事項は「犯罪」に分類される。一方、ケーブルテレビ会社の「USEN」がライブドア株を取得するという事項は、「経済」に分類される。その日のゲストやレギュラーコメンテーターによる談話が中心であった事項は、「トーク」とした。分類に際しては酒井が「情報ツウ」と「スーパーモーニング」を、池上が「とくダネ」を主として担当し、それぞれのコード結果について、相互にチェックを行なった。

各番組の詳細な項目について記したデータが表

6 および表7である。

分類の結果、同じ時間帯に放送されているワイドショーであっても、番組それぞれにテーマごとに特徴があることが確認された。

まず、いずれの番組においても事項本数、時間量ともにスポーツへの言及が多く見られる。これは、録画期間内に開催されていたトリノオリンピック（2月10日から2月26日）とワールドベースボールクラシック（3月3日から3月21日）に関連する報道が多くなったためと考えられる。スポーツニュースがワイドショーに登場するというのはあまり一般的な事例ではないことから、この期間に各番組はややイレギュラーな放送編成をとっていたとは考えられる。この期間にスポーツに関連する事項本数が最も多く、放送時間量でも他の2局に比べて長かったのは、「とくダネ」であった。

それでは、それぞれの番組の特徴に移ろう。

「情報ツウ」は、放送された事項の本数ではゲストトークが130本（16%）と最も多く、ついで芸能115本（14%）、犯罪・事故86本（11%）紀行・企画およびその他が63本（8%）となっている。放送時間量で見ると、犯罪・事件・事故がもっとも長く959分（20%、平均11.2分）、ついでゲストトーク840分（17%、6.5分）、芸能559分（11%、4.9分）、紀行・企画430分（9%、6.8分）となっており、ゲストトークや芸能関係の話題は、数は多く取り上げてはいるものの、事項数に対しての時間量はやや少なく、一事項あたりの平均放送時間も比較的短い物になっている。対して、犯罪・事件・事故には多くの時間を割いており、一事項あたりの放送時間も長いものとなっている。「情報ツウ」は全体的に個々の事項の放送時間量が他局の番組にくらべて長めであるが、後述する番組の SCRIPT 化によって、「情報ツウ」ではスタジオトークの時間が長めに設けられ

表6 項目数に基づく構成比

番組名	全体	政治	経済	軍事	犯罪・事件・事故	時事的な話題
情報ツウ	798本	3%(21)	1%(4)	0%(0)	11%(86)	2%(14)
とくダネ!	1016本	8%(77)	2%(24)	2%(16)	26%(268)	5%(49)
スーパーモーニング	865本	17%(151)	2%(21)	1%(6)	31%(270)	10%(87)

番組名	全体	家族・暮らし	スポーツ	恋愛・結婚	芸能	紀行・企画
情報ツウ	798本	1%(2)	9%(72)	4%(34)	14%(115)	8%(63)
とくダネ!	1016本	1%(13)	15%(157)	2%(24)	7%(73)	8%(81)
スーパーモーニング	865本	2%(19)	11%(98)	1%(12)	5%(39)	6%(54)

番組名	全体	ゲストトーク	ニュースダイジェスト	気象	その他	OP・ED
情報ツウ	798本	16%(130)	6%(49)	6%(49)	8%(63)	12%(96)
とくダネ!	1016本	2%(19)	1%(13)	5%(55)	6%(66)	9%(96)
スーパーモーニング	865本	1%(1)	2%(14)	1%(1)	0%(0)	11%(92)

表7 時間量に基づく構成比（括弧内は1項目の長さの平均：分）

番組名	全体	政治	経済	軍事	犯罪・事件・事故	時事的な話題
情報ツウ	4885分	6%(14.3)	1%(9.0)	0%(0)	20%(11.2)	2%(7.9)
とくダネ!	4954分	9%(5.8)	3%(5.9)	1%(4.6)	26%(4.9)	4%(3.9)
スーパーモーニング	4658分	21%(8.1)	3%(4.9)	2%(1.8)	36%(6.3)	7%(3.9)

番組名	全体	家族・くらし	スポーツ	恋愛・結婚	芸能	紀行・企画
情報ツウ	4885分	1%(16.5)	19%(12.9)	4%(5.1)	11%(4.9)	9%(6.8)
とくダネ!	4954分	1%(5.1)	24%(7.5)	2%(24)	6%(4.3)	10%(5.9)
スーパーモーニング	4658分	3%(6.7)	12%(5.8)	1%(12)	4%(4.9)	4%(3.3)

番組名	全体	ゲストトーク	ニュースダイジェスト	気象	その他	OP・ED
情報ツウ	4885分	17%(6.5)	6%(6.0)	1%(1.0)	1%(1.0)	2%(1.1)
とくダネ!	4954分	1%(6.0)	1%(2.9)	3%(2.8)	1%(1.0)	8%(3.9)
スーパーモーニング	4658分	0%(6.0)	2%(5.0)	1%(1.0)	0%(0.0)	2%(1.2)

ていることが窺えた。

「スーパーモーニング」は三番組のなかで政治・国際関係の事項を本数・放送時間量ともに最も多く取り上げていた。具体的な報道としては、「小泉総理に“難題続出”通常国会開会」「杉村太蔵議員を直撃!“文書交通費”は必要?」など国内政治に関連する話題に加えて、「米国産牛肉輸入停止 プッシュ大統領 強気発言」「北朝鮮終わりなき閨第62弾 マカオ拉致女性家族に独占密着!!」など国際的な話題があり、本数では151本(17%)、時間量では1222分(21%、平均8.1分)と他の2番組を大きく上回る数値となっている。また、犯罪・事件・事故に関する事項では、本数では270本、時間量としても1699分(36%、平均6.3分)と、両項目とも最も大きな割合となっている。

2つの番組の中間的な存在となるのが「とくダネ」である。例えば、犯罪・事件・事故に関係す

る事項は268本(26%)あり、放送時間量では1313分(全放送時間の26%、平均4.9分)となっており、「スーパーモーニング」には及ばない物の、「情報ツウ」よりは多い数値となっている。また、政治国際関係の事項についても本数77本(8%)、時間量443分(9%、平均5.8分)と「情報ツウ」よりも多い割合を示しているが、「スーパーモーニング」ほどではない。逆に、芸能関連や恋愛・結婚に関しては事項数73本(7%)、時間量103分(6%、平均4.3分)と「スーパーモーニング」よりは高い割合をしめすが、こちらは「情報ツウ」ほどではなかった。

ここまで14に分類したカテゴリーごとの言及頻度を見てきたが、つぎに、それらの番組がどのようなテーマにもとづく報道を行っているのか、それを検証するために、これらの14カテゴリーを事後的に三分類した。ここではニュース報道に直接関係のない「紀行・企画」「ゲストトーク」

「その他」「オープニング・エンディング」および複数のニュースが列挙され、事項として三分類のテーマ別に分類することのできなかった「ニュースダイジェスト」を除き、「政治」「経済」をハードニュース「軍事」「犯罪・事件・事故」をバイオレントニュース、「時事的な話題」「家庭・くらし」「スポーツ」「恋愛・結婚」「芸能」「気象」をソフトニュースと分類し直した。一般的に「バイオレントニュース」は「ハードニュース」に分類されるが、萩原（2001）に依拠して、「人間同士の争い」に言及したカテゴリーとして、「バイオレントニュース」を「ハードニュース」から独立させた。ハードニュース・バイオレントニュース・ソフトニュースそれぞれの構成比を示したものが、表8および表9である。

再カテゴリー化の結果、番組ごとの特徴がより明らかになった。とくに、ハードカテゴリーからバイオレントカテゴリーを独立させたことによって、放送時間量に関して三番組それぞれがもつ傾向を見ることができた。

「情報ツウ」はニュースに関連する項目が3147分と最も少なく、他の2番組と比較して、報道的な内容に重きをおいていないことがわかる。取り扱われている項目を見ても、事項数が72%（286

項目）、また放送時間量が放送時間に対して59%を占めるなど、ソフトな事項に当てられる割合が他の二番組と比べて多くなっている。テーマごとの放送時間量の平均が他局の番組に比べて長めになっている（なかでもハードカテゴリーの平均が13.5分）のは、「情報ツウ」ではスタジオトークの時間が長く設けられていることが影響しているものと考えられる。

「スーパーモーニング」はニュースに関連する放送時間が4298分と3番組の中で最も大きな数値を示している。また、その内容も事項数172（2%）、放送時間量31%とハードニュースを数多く、多くの時間をかけて放送している。また、バイオレントカテゴリーも、276事項（39%）、放送時間量40%と多くの事項と時間を割いており、ハードとバイオレントそれぞれのカテゴリーを足すと、事項の本数においては6割以上にのぼる。ソフトカテゴリーに属するニュースは256本（36%）、放送時間量29%と他の番組にくらべて少なく、平均放送時間も4.9分と短いものになっている。「スーパーモーニング」は3つの番組の中で、最も報道を指向した内容になっている。

最後に「とくダネ」は、ニュースに関連する放送時間が3967分と「情報ツウ」と「とくダネ」

表8 テーマごとの事項数に基づく構成比

番組名	全体	ハード	バイオレント	ソフト
情報ツウ	397本	6%(25)	22%(86)	72%(286)
とくダネ!	756本	13%(101)	38%(284)	49%(371)
スーパーモーニング	704本	24%(172)	39%(276)	36%(256)

表9 テーマごとの放送時間量に基づく構成比（括弧内は1項目の長さの平均：分）

番組名	全体	ハード	バイオレント	ソフト
情報ツウ	3147分	11%(13.5)	30%(11.2)	59%(6.5)
とくダネ!	3967分	15%(5.8)	35%(4.9)	50%(5.4)
スーパーモーニング	4298分	31%(7.7)	40%(6.2)	29%(4.9)

の中間の数字となっており、分類別でもハードニュースが事項数 101 本（13%）、時間量 15%、バイトレントニュースが、事項数 284 本（38%）、時間量（35%）、ソフトニュースが事項数 371 本（49%）、時間量 50% と事項数・放送時間量ともに「情報ツウ」と「スーパーモーニング」の中間に位置する構成比になっている。事項数については 756 本と最も多くの事項を取り扱っており、番組の内容の多様性が伺える。またそれに関連して、各事項の平均放送時間は比較的短いものとなっている。

4 ワイドショーにおける BSE 報道

前節の内容分析によって、朝のワイドショー番組それぞれの番組内容構成上の特徴が明らかになった。本節では BSE リスクに関する米国産牛肉輸入停止問題をめぐる報道を抽出し、これらの報道がどのように各番組において行われていたかを、事例として見ていく。

BSE（別名「狂牛病」）は家畜伝染病の一種で、人間への感染は、BSE 感染牛の肉を通じて伝達されるといわれている。2003 年以来、BSE リスクは日米間の米国産牛肉輸入の問題として焦点化されてきた。2004 年 2 月に吉野家をはじめとする牛丼チェーン店がいっせいに主力メニューである牛丼の販売を休止したことは、米国産牛肉輸入停止が日本の消費者の食生活に与えたショックとして、複数のメディアで報じられた。

輸入の全面停止から二年後の 2005 年 12 月 12 日に、内閣府・食品安全委員会による専門調査会の検討を経て米国産牛肉の輸入再開が決定した。輸入再開に際して、日本政府は米国側に（1）脳や脊髄など、BSE に感染するリスクの高い特定危険部位を取りのぞいた（2）生後二十ヶ月以内の牛肉に限る、との条件を付した。しかしながら、輸入再開から一ヶ月後の 2006 年 1 月 20 日、成田空港の動物検疫所の検査官が輸入された米国産牛肉の箱のなかに、特定危険部位に指定されている

脊柱の混入を確認し、日本政府側はこの一件を重大な協定違反であるとして、ただちに米国産牛肉の輸入を再度停止したのだった。

本節では、三局が同日に米国産牛肉輸入停止問題を取りあげた 1 月 23 日の報道をもとに、三番組の報道形式の違いを比較する。これら朝のワイドショーは週末は放送していないため、ニュース番組では既報の問題であったが、翌週月曜日の 1 月 23 日が米国産牛肉輸入停止問題を各番組が報じた第一回目の放送となった。

分析に際して、検証をより詳細に行なうために映像およびテロップ・話者・サウンドバイトの内容ごとにスクリプトを作成し、さらに VTR 映像の部分に関しては、VTR の編集に応じて切り替わる映像を独立した一カットとして捉え、その本数と放送時間（秒単位）を記録した。作成されたスクリプトは膨大な分量となるため、ここではその全容を示すことはできない。本稿では三番組の中で比較的短かった「スーパーモーニング」で放送された 1 月 23 日の牛肉輸入停止問題の放送内容をスクリプト化したものを、表 10 にサンプルとして掲載した。

詳細なスクリプトによって、編集映像上のテロップや効果音といった、ニュース番組のソフト化やバラエティ化の特徴とされる形式的要素が三番組に共通して多用されていることが確認された。たとえば表 10 のスクリプトの「映像」列を見ると、ほとんどの VTR のカットでテロップが使用されていることが確認できる。話者による発言のたびに、その発言内容がテロップとして言い換えられたり、簡潔にまとめられたりすることによって、番組は視聴者に報道に対する「わかりやすさ」を丹念に提供しようとしているものと考えられる。

前掲の表 2、表 3、表 4 を参照してわかるように、米国産牛肉輸入停止問題の報道は「情報ツウ」「とくダネ」では番組の前半で、「スーパーモーニング」では番組の後半で扱われた。一般的にニュース番組では重要と判断されたニュースから

表 10 「スーパーモーニング」1月23日放送スクリプト、9:29 AM~9:34 AM

日付	時刻	カット	放送時間 量(秒)	映像〈 〉内はテロップ表示	話者	語り
1月23日	9:29		8	スタジオからスタジオ内スクリーンへズーム。〈再開からわずか一月 米産牛肉輸入停止〉	アナウンサー	再開されてからわずか一月あまり、アメリカ産牛肉の輸入が全面停止になりました。そのずさんな検査体制に波紋が広がっています。
		V 1	18	VTR 開始〈衆院本会議場 20 日〉小泉総理大臣の施政方針演説の映像。〈科学的知見を踏まえ、アメリカ産牛肉の輸入を再開しました 消費者の視点に立って食の安全と安心を確保してまいります〉	小泉総理大臣	科学的知見を踏まえ、アメリカ産牛肉の輸入を再開しました。消費者の視点に立って食の安全と安心を確保してまいります。
		V 2	13	食肉処理施設の資料映像。〈輸入されたアメリカ産牛肉の中に特定危険部位「背骨」が見つかる〉	ナレーション	先週金曜日、施政方針演説でこう胸をはった小泉総理。しかしこの日、輸入再開からわずか一月、成田空港に輸入されたアメリカ産の牛肉の中に、特定危険部位である背骨が見つかった。
		V 3	5	〈そして—— 施政方針演説から 5 時間後〉		
		V 4	3	小泉総理大臣の会見映像。〈全部 日本への輸入をストップする〉	小泉総理大臣	全部、日本への輸入をストップすると。
		V 5	7	見つかった背骨の写真。〈動物検疫所 成田支所 撮影〉	ナレーション	農水省が公表した一枚の写真。背骨がはっきりとわかる。
		V 6	6	牛の特定危険部位の図。脳・眼球・背骨・回腸の末端が赤く強調されている。	ナレーション	背骨は BSE の原因となるタンパク質、プリオンがたまりやすい、特定危険部位の一つ。
	9:30	V 7	17	〈再開第 1 便 先月 16 日〉牛肉輸入再開第一便の映像。〈輸入再開の条件 ・生後 20 ヶ月以下・特定危険部位の除去〉	ナレーション	政府は先月、生後 20 ヶ月以下の若い牛で、脳や眼球などの特定危険部位を取り除くことを条件に、輸入を再開したばかりだった。なぜ、今回のことが起きたのか？
		V 8	9	〈問題の肉を処理した工場の従業員は——〉工場の従業員へのインタビュー映像。〈あなたたちに聞くまでこのニュースを知らなかった 工場の上司からも何も聞いていない〉	工場の従業員	(スペイン語で話されている)
		V 9	23	食肉処理施設の映像を背景に、日米の基準の違いを図示。〈米国流通→生後 30 ヶ月以下の牛は特定危険部位の除去は必要なし〉〈日本輸出→・生後 20 ヶ月以下・特定危険部位を除去〉食肉処理施設の映像を背景に、〈米農務省の検査官が日本への輸出基準を認識せず〉	ナレーション	アメリカでは、生後 30 ヶ月以下の牛は安全との基準で、特定危険部位は取り除かない。しかし、日本向けに輸出される牛は生後 20 ヶ月以下、しかも、特定危険部位を取り除かなければならない。業者も、アメリカ農務省の検査機関も、この違いを認識していなかった。
	9:31	V 10	12	〈ワシントン 20 日〉ジョハnz農務長官の会見映像。〈重要な貿易相手国である日本との合意に対して——容認しがたい失敗である〉	ジョハnz農務長官	This is an unacceptable failure on our part to meet the requirements of our agreement with this trading partner and the country of Japan.

日付	時刻	カット	放送時間 量 (秒)	映像〈 〉内はテロップ表示	話者	語り
		V 11	13	専門家へのインタビュー映像。〈食品安全委員会プリオン専門調査会委員 山内一也氏〉〈(特定危険部位を)ちゃんと取っていますと言っても実際には取り残しがあるのではそういう点を心配していた 初めから (特定危険部位を)取っていないものが輸出されてくる。想定以上)	山内一也氏	ちゃんと取ってますと言っても、実際には取り残しがあるんじゃないかと、そういう点を心配してたんですね。始めから取ってないものが、輸出されてくるっていうのは、これはもう、想定以上の…
		V 12	9	会見映像。〈中川農水大臣〉〈アメリカ側に嚴重にこの問題を申し入れたい〉	中川農水大臣	アメリカ側にです、嚴重にこの問題を申し入れをしたい。
		V 13	11	店頭映像。〈スーパー「マルナカ」(高松市)「米国产牛肉フェア」中止のお知らせポップにズーム。	ナレーション	今回の輸入停止をうけ、アメリカ産牛肉をすでに販売していたスーパーでは、急遽とりやめ、店頭から撤去した。
		V 14	9	「吉野家」の映像。〈吉野家 来月 11日に予定していた牛井の再開を延期〉	ナレーション	また、来月 11日に、二年ぶりに牛井の販売を再開する予定だった吉野家は、販売の延期を決定した。
		V 15	5	〈吉野家の客は〉吉野家の客 A へのインタビュー映像。〈輸入再開自体がちょっとと思う今は豚丼食べているんで)	吉野家の客 A (男性)	輸入再開自体がちょっとと思うんで…今はもう、豚丼食べてるんで。
		V 16	6	〈吉野家の客は〉吉野家の客 B へのインタビュー映像。〈早く食べさせてほしい 牛丼〉	吉野家の客 B (男性)	早くねー、牛肉食べさせてほしいよねー。(インタビュアー：牛丼を?) 牛丼を。うん
		V 17	5	見つかった背骨の写真 2 枚。〈動物検疫所成田支所 撮影〉〈きょう米代表団来日予定〉	ナレーション	今日、アメリカの代表団が今回の説明をするため、来日する。
	9:32	V 18	6	商店街での女性へのインタビュー映像。〈万が一すぐ(輸入を)再開されたとしてもちょっと食べる気にはなれない〉	女性	万が一、すぐ再開されたとしても、ちょっと食べる気にはなれない…です。
		V 19	9	食肉処理施設の映像の後に、発見された背骨の写真がアップで映る。	ナレーション	アメリカ産牛肉に対する信頼が、再び揺らいだ今回の問題。消費者の不安は、すぐにはぬぐえない。
			26	スタジオ映像。スタジオ内スクリーンにズーム。日本とアメリカの基準の違いの映像。〈日本 20 カ月以下 背骨などの特定危険部位を除去/アメリカ 30 カ月以下 特定危険部位を除去せず 30 カ月以上 特定危険部位を除去)	アナウンサー	はい、この問題、そもそも安全の基準が日本とアメリカではこう違います。日本は 20 カ月以下、えーっ、さらに、背骨などの特定危険部位を除去したものだけを輸入ということだったんですが、アメリカは、いまもありましたが、30 ヶ月以下は除去しなくてもいい、30 ヶ月以上は特定危険部位を除去すれば、ということだったんですね。しかしこの部分(日本の基準の図を指して)も徹底されていなかったという今回の問題ですが、えー…

日付	時刻	カット	放送時間 量(秒)	映像〈 〉内はテロップ表示	話者	語り
			6	スタジオ全体を映す。	司会者	だってねー、これー、スタンプ押されて承認されて送られてきてるわけでしょ？ その中に入ったっちゃうことですからね
			1		アナウンサー	ねー。ヨシナガさんいかがですか？
	9:33		18	女性コメンテーター	女性コメンテーター	これだけほとんど基本的にね、こうやって約束して日本側は譲歩して決めたことを、向こうがこのようにずさんなかたちでね、破ってくると。知らなかったじゃすまないじゃない、検査印まで押ししてるわけだから。ということは、もとより約束なんてことをどういう風に考えてる国なのかっていうことが、よく分かりますよ。
			6	女性コメンテーターと男性コメンテーター A	男性コメンテーター A	だってあの、食肉業界の上の人怒ってるでしょ？ この輸入禁止措置を。何でこんなことで輸入禁止するんだと。うーん…
			1	アナウンサー	アナウンサー	そもそも理解されてない
			1	女性コメンテーターと男性コメンテーター A	男性コメンテーター A	もう一回ちゃんとやればいいじゃねえかっていうような言い方だね、
			1		司会者	それはアメリカの考え方。
			8	途中からスタジオ内スクリーンにズーム〈米国産牛肉をめぐる経過 2003年12月 米でBSE発生 米国産牛肉の輸入を停止 2004年10月 日米協議、輸入再開方針で合意 2005年3月 日米首脳電話協議でブッシュ米大統領が早期輸入再開を要求 12月12日米国・カナダ産牛肉輸入再開を決定 12月16日米国産牛肉再開 第1便空輸で到着 2006年1月20日 特定危険部位混入 輸入停止を決定〉	女性コメンテーター	でも国と国の約束事をこのように軽く考えられちゃ困るわけで、そうすると日本とアメリカは、様々な約束事が、あの安全保障にいたるまであるわけですからね。
			26		男性コメンテーター B	それと、例の安全委員会が決めたわけじゃないですか。その時はかなり消費者団体からですね、大丈夫なのかと…にもかかわらずですね、まあちょうど去年、ブッシュさんが来る頃にあわせてですね、いかにも手土産のように、再開を決めたと。結果こうだったと。あなたたちはその責任はなんて考えてるんだと、ちょっとねー、やっぱり、いい加減すぎたような気がしますけどね。
			3	男性コメンテーター A	男性コメンテーター A	次のハードルが、すごく高くなっちゃったよね、これでね。どうすんだろって感じだよな。

日付	時刻	カット	放送時間量 (秒)	映像〈 〉内はテロップ表示	話者	語り
	9:34		1	アナウンサーとスタジオ内スクリーン	アナウンサー	ええ、この問題も論点になるでしょう。

順に番組が進行すると言われるが、現時点で我々はそうした番組進行上の位置関係がワイドショーにとっての事項の重要性を示していると断言できるにはいたっていない。ここでは石山ら（2005）に依拠して、ワイドショーにおける情報提示の基本構造である「トピック形式」と「ニュース形式」の違いという側面から捉えておきたい。石山（2005）らは、トピック形式を以下のように特徴づけている。

- 1) トピック形式は最新のニュース的要素をもち、その日に報道する必然性をもつものである。
- 2) トピック形式では、ワイドショーのはじめに放映されることが多く、「ビデオ映像などによる報道後、スタジオにてビデオ映像の内容に関する整理、解説が行われ、出演者によるコメントや討議が行なわれる。
- 3) トピック形式の放映のし方（編集・構成）には、送り手による一定の方向性が示唆される場合が多い。（石山ら 2005：104）

一方のニュース形式には、VTR 映像の使用や新聞・週刊誌など多メディアからの引用や言及が行なわれるなど、バリエーションが存在するが、一項目あたりの放送時間はトピック形式のニュースよりも「比較的短く、1～5分程度」（石山ら 2005：104）であり、スタジオトークに関しても、少ない人数で単発的なコメントを発することが特徴である。

以上の情報提示の形式を念頭において、表 10 を見てみよう。1月23日に各局で放送された米国産牛肉輸入停止問題の VTR 映像の放送時間量と、その後続くスタジオトークの放送時間量それぞれを表にしたものが、表 11 である。

今回のデータにおいても、番組の前半で米国産牛肉輸入停止問題を報道した「情報ツウ」と「と

表 11 1月23日に放送された米国産牛肉輸入停止問題に関する各局の報道の構成比（秒）

番組名	VTR 映像	スタジオトーク
情報ツウ	303	275
とくダネ!	624	274
スーパーモーニング	186	98

くダネ」はいずれも長めの放送時間をとっており、スタジオトークはどちらも4分半強の時間を設けていることから、「トピック形式」を採用しているものと仮定できる。一方番組の後半で米国産牛肉輸入停止問題を報道した「スーパーモーニング」は VTR 映像・スタジオトークともに他局の放送に比べて短めであって、これは「ニュース形式」を採用しているものと仮定できる。

VTR 映像による報道やその編集において、ニュース番組とワイドショーの境界が消滅しつつあるといわれるが、ワイドショーを特徴づけている要素に、出演者同士が談話するスタジオトークの存在がある。表 11 はワイドショー各番組が米国産牛肉輸入停止問題について、VTR 映像とスタジオトークとの比重を示している。久米宏による「ニュースステーション」はニュース番組にトークを持ち込むという点について画期的であったといわれるが、ワイドショー化が指摘される現在のニュース番組一般においても、スタジオトークのためだけに、事項あたりこれだけの時間が設けられていることはないだろう。なかでも「情報ツウ」でのスタジオトークの比重は、VTR 映像の9割に達している。

それでは、米国産牛肉輸入停止問題に関して、三番組でそれぞれどのようなスタジオトークが交わされたのだろうか。表 10 に示したようなス

リプトをもとにスタジオトークを質的に分析した結果、つぎのようなことが明らかになった。

まず、「とくダネ」の米国産牛肉輸入停止問題報道は、トータルで三番組のなかでもっとも長い時間放送された。CMなしに624秒のVTR映像が放送され、映像終了後、274秒のスタジオトークが交わされた。「とくダネ」のスタジオトークでは、アナウンサーはVTR映像を確認する以上に、「500キロの肉を処分」「問題の肉を3箱発見」「2003年までは24万トン、約30%が日本市場向け」という牛肉輸入停止問題に直接関与する情報から、「吉野家の株価の推移」や「オーストラリア産牛肉への追い風」といった、牛肉輸入停止問題の周辺的な情報まで、VTR映像では語られなかった情報を付加する役割を担っていた。スタジオトークの論調も、「これだけの牛肉が捨てられてしまうのはもったいない」という主旨を持ち、討論というよりはそれぞれが「もったいない」ということばをキーワードに、ある知識人のコメンテーターは「日本とアメリカの文化の違いを調停するのは難しい」と述べた。またある服飾評論家のコメンテーターは「安くしてでも売れないか」との発言を行い、論調は比較的ソフトに終始した。さらに「とくダネ」では、スタジオトークの合間にニューヨーク支局のアナウンサーが生出演し、アメリカ側が米国産牛肉輸入停止問題をどう受け止めているかについての情報を追加した。まとめると、「とくダネ」のスタジオトークでは、アナウンサーが情報を付加し、コメンテーターが問題についての自分なりの切り口を述べるという形になっていた。

「スーパーモーニング」の米国産牛肉輸入停止問題報道では、CMなしに186秒のVTR映像が放送され、映像終了後、98秒のスタジオトークが交わされた。この日の「スーパーモーニング」で、米国産牛肉輸入停止問題は「スパモニニュースBOX」という、ニュースを五本提示し、それらについて一本あたり3~4分程度の短い時間で見ていくというスタイルのコーナーで報道された。

「スーパーモーニング」のアナウンサーはVTR映像ですでに提示された情報を再確認する以上に新たな情報を付加することはなかった。スタジオトークの論調は、米国について「もとより約束なんてどういう風に考えてる国なのかがわかりますよ」と問題を一般化させた批判から、日本の安全委員会がプッシュ米大統領への「手土産のように再開を決めた」という批判まで、ハードな切り口となっていた。

「情報ツウ」において米国産牛肉輸入停止問題報道について設けられたスタジオトークは、VTR映像に対して9割の時間量に達していた。CMなしに303秒のVTR映像が放送され、映像終了後、275秒のスタジオトークが交わされた。「情報ツウ」は「とくダネ」と同等の時間量がスタジオトークに設けられていたが、その構成は大きく違った。「とくダネ」のアナウンサーがVTR映像では語られなかった情報を付加する役割を追っていたのに対して、「情報ツウ」のアナウンサーは、「輸入停止の条件」をまとめる程度で、映像で語られたことをあくまでも確認するにとどまった。「情報ツウ」ではコメンテーターが「アメリカは子牛を管理できていない」や「BSEの原因がプリオンではないという学説もある」といった、VTR映像では語られなかった情報を提示した。このコメンテーターはスタジオトークの約半分、合計129秒発言し、自身の切り口としても、「日本をなめた話だ」「アメリカに対する幻想を日本人は捨てたほうがいい」といった、ハードな切り口を用いていた。他のゲスト出演者も、「大量破壊兵器でわかるように、アメリカの言うことは鵜呑みにしない方がいい」といった切り口から、論調は終始ハードな、ときに怒気を含めたトーンで語られた。

スタジオトーク時間を等しく設けていた「とくダネ」と「情報ツウ」であっても、前者がアナウンサーが付加情報を提示し、コメンテーターが問題についての切り口を述べるというスタイルを採っていたのに対して、一方「情報ツウ」は、コメ

ンテーターが一人で付加情報の提示も切り口も語り、結果的にコメンテーターが単独で目立つ形となっていた。「情報ツウ」のコメンテーターは「毒舌家」として知られた評論家であり、そのようなキャラクター性が際立った放送日であった可能性もあるが、ともあれ、以上のようにして、同じ米国産牛肉輸入停止問題問題についてのスタジオトークであっても、番組ごとに異なるスタイルが観察された。

5 サマリー

以上、各局のワイドショーの放送データを参照しながら、各番組の構成や取り上げる事項、報道とスタジオトークの関係などに見られる特徴に分析を行った。分析からは、同じ時間帯に放送されている三番組であるが、いずれの番組もそれぞれに特徴だった志向性をもっていることが明らかとなった。芸能関係などのソフトニュースを中心に取り扱っていた「情報ツウ」、国際政治関係の項目に力を入れている「スーパーモーニング」、バラエティに富んだ内容になっている「とくダネ」と、一口に「ワイドショー」といっても、各局とも内容面において他局番組との差異化を計っていることが把握できた。なかでも政治および、芸能関連の事項については、番組による扱いの差が明らかになった。政治関係の話題については、特に「スーパーモーニング」において事項数151本(17%)、時間量21%(平均8.1分)と多くの事項と時間が割かれていた。また、芸能関連の話題については「情報ツウ」が事項数115本(14%)、時間量11%(平均4.9分)と多くの事項と時間を割いていた。経済、家族、くらしに関係するトピックはいずれの番組でもあまり扱われておらず、これらは朝のワイドショー番組においては重要なトピックではなかった。もっとも、これらは朝のワイドショー番組において確認できた事柄であり、一般化については、昼のワイドショー番組や休日のワイドショー番組との比較を待たねばならない。

さらに、三番組のいずれもが、犯罪・事件・事故について比較的多くの事項および、時間を割いていることが明らかになった。ソフトニュースに重点が置かれている「情報ツウ」については86項目(11%)と事項数ではやや少なかったが、時間量では20%を占めており、約5分の1であった。「とくダネ」と「スーパーモーニング」においては、事項数(「特ダネ」268本、26%・「スーパーモーニング」270本、31%)時間量(「とくダネ」26%、平均4.8分、「スーパーモーニング」36%、平均6.3分)共に多くの割合が割かれており、朝のワイドショーにおいて、バイオレントニュースは主要なトピックの一つになっている。ワイドショーを始めとして、各テレビ番組について培養分析を行なった中村功はテレビの暴力描写においてワイドショー番組がきわめて重要なジャンルとなっている事を指摘しているが(中村1998:136)、今回の分析はそれを裏付けた形となった。

今回の分析は朝のワイドショー番組間の比較にとどまったが、今後は前後の時間帯の番組との比較や、前述した夕方のワイドニュース番組との比較が必要となる。また、概して朝のワイドショー番組の視聴者は主婦層や高齢層と思われるが、居住地ごとの通勤スタイルの違いによって、朝のワイドショーにはサラリーマンや学生といった多様な視聴者が存在することは想定される。今後ワイドショー研究には様々なマス・コミュニケーション研究のアプローチが期待されるが、本研究はそれらの基盤として資するものである。

なお、本稿で詳細に触れることができなかったVTRの使用やスタジオトークについての詳細な質的分析は、是永・水川・酒井(2006)および是永・酒井(forthcoming)によって、エスノメソドロロジー／会話分析の方法により、論じられている。

注

- 1) 本稿は、立教大学学術推進特別重点基金 大学院生研究「放送におけるリスク言説の構成－ワイド

ショー番組を題材に」の助成研究の一部である。また、筆者の所属する READ 研究会からは、公益信託・高橋信三記念・放送文化基金による助成研究「「メディア経験」としてのリスクー放送におけるリスク言説による現実構成について」による、朝のワイドショー番組の録画素材提供を受けた。

- 2) 「情報ツウ」は2006年3月末で放送終了。「スーパーモーニング」は2006年4月より、午前7時半からの放送に時間が変更されている。

参考文献

- 福田充, 2006, 「グローバル・リスク社会を表象する国際テロ報道—2004年スペイン列車爆破テロ事件を中心に」『メディア・コミュニケーション』56: 109-28.
- Hack, Richard, 1999, *Madness in the Morning: Life and Death in TV's Early Morning Ratings War*, Beverly Hills, CA: New Millennium Press.
- 萩原滋, 2001, 「ニュース番組の内容と形式—娯楽化傾向の懸賞と番組の類型化」萩原滋編『変容するメディアとニュース報道—テレビニュースの社会心理学』丸善, 67-114.
- 萩原滋・川端美樹, 2001, 「ニュースメディアの変遷—テレビ報道小史」『変容するメディアとニュース報道』丸善, 1-26.
- 日吉昭彦, 2005, 「『ニュースステーション』が伝えた『二風谷ダム』報道—ニュースドキュメンタリーにおける映像テキストに関する考察を中心に」目白大学人文学研究, 2: 97-112.
- 川上善郎・日吉昭彦・石川玲子・松田光恵・鈴木靖子, 2004, 「社会的現実を作るメディアトーカー—ニュース報道の共鳴化」コミュニケーション紀要, 成城大学, 16: 29-129.
- 石山玲子・川上善郎・大石千歳・鈴木靖子・松田光恵, 2005, 「ワイドショーの構造分析—形式の概念化とスタジオトークとの関連性」コミュニケーション紀要, 成城大学, 17: 97-128.
- 是永論・水川喜文・酒井信一郎, 2006, "Identities in Action: Category Work and Dialogical Network in Making Sense of the Risk of Mad Cow Disease in Japan" *Ethnomethodology and Media: Wars, Borders and Identities workshop in Prague*.
- 是永論・酒井信一郎, forthcoming, 「「ニュース・ストーリー」の構成と理解の実践過程—BSE問題における「リスク」を焦点に」.
- 中村功, 1998, 「テレビが視聴者の現実認識に与える影響—ワイドショー等、番組別の培養分析」『松山大学論集』10 (3): 133-62.
- 日本民間放送連盟編, 1997, 『放送ハンドブック (新版)』東洋経済新報社.
- Scannell, Paddy, 1996, *Radio, Television and Modern Life: A Phenomenological Approach*, Oxford: Blackwell.
- 田中東子, 2002, 「主婦向け情報番組のわな—沈黙は饒舌に包囲される」伊藤守編『メディア文化の権力作用』せりか書房, 127-51.
- Wieten, Jan and Mervi Pantti, 2005, Obsessed with the audience: breakfast television revisited, *Media, Culture & Society*, 27 (1): 21-39, Sage.